

電通と博報堂の産学連携ラボ『MIRAI DESIGN LAB.』主催

## 「MIRAI DESIGN AWARD 2030」受賞作品決定

大学生・大学院生による、“2030年の社会”を想定したアイデアを選考  
増田寛也氏、中村拓志氏らの審査を経て、受賞5チームが決定

株式会社電通（本社：東京都港区、社長：高嶋達佳）と株式会社博報堂（本社：東京都港区、社長：戸田裕一）は、昨年9月に両社で共同設立した産学連携ラボ『MIRAI DESIGN LAB.』（以下 MDL.）の第一弾の活動として開催した「MIRAI DESIGN AWARD 2030」の受賞者を決定しましたのでお知らせいたします。

「MIRAI DESIGN AWARD 2030」は、全国の大学生・大学院生から“2030年の社会”を想定したアイデアを募り、その構想力やアイデアの新しさ、実現性といった観点から受賞作品を選考するものです。選考には、大学教授やMDL. メンバーの他、特別審査員として増田寛也氏（東京大学公共政策大学院 客員教授）、中村拓志氏（建築家）をお迎えし、合計40作品の中から厳正なる審査を経て、受賞5チームを決定いたしました。授賞式は、2011年4月6日10時より、東京ミッドタウンにて行う予定です。 ※ 授賞式に関しては、後日ご案内いたします。

### 受賞作品 (エントリーNo.順) ※作品詳細は次ページ以降

- ・**広告医学が拓く、新たな医療のカタチ** / 横浜市立大学 医学部医学科  
「The Eggs」: 武部貴則、竹内一朗、鈴木オリエ
- ・**信任貨幣(Confidence Currency)** / 東京大学大学院 学際情報学府  
「Team コモンズ」: 天野彬、山岸拓也、工藤尚弥
- ・**Moira Mirror ~未来のための健康リマインダーシステムの提案**  
/ 早稲田大学大学院 国際情報通信研究科 マルチメディアサイエンス分野  
「Team\_NRK」: 徐子雁、張伊雯、張棋翔
- ・**未来に灯りを灯す** / 九州大学 統合新領域学府 ユーザ感性学専攻  
「灯り」: 水上郁太郎、亀井昂、姉川伊織
- ・**ノマドパスポート -NOMAPO-** / 慶應義塾大学 総合政策学部 総合政策学科  
「ジャック・サカイ」: 小川慶大、飯田麻友、仲川孔望

受賞チームは、今後ラボ研究メンバーの一員となり、採用されたアイデアをより具現化していくため、電通・博報堂社員とのセッションや、当該分野の有識者とのワークショップに参加します。なお、ラボでの研究を経て練られたアイデアの発表は、2011年7月頃を予定しています。

### ■ 報道関係者からのお問い合わせ先

電通 コーポレート・コミュニケーション局 広報部	市川・林田	TEL 03-6216-8041
博報堂 広報室	西尾・藤井	TEL 03-6441-6161

## 「MIRAI DESIGN AWARD 2030」受賞作品

### 概要と審査員による講評

\* 講評は、本アワードにご協力いただいた大学教授や特別審査員、および MDL メンバーの意見を集約し、まとめたものです。

#### ■ 広告医学が拓く、新たな医療のカタチ

横浜市立大学 医学部医学科 武部貴則、竹内一朗、鈴木オリエ

**概要** 専門性の高い医療が要求される「感染症」が死因の過半であった時代から、いまや生活習慣病を代表とする「予防可能疾病」が死因の多くを占めるようになってきており、近年、医療従事者が対峙すべき疾病の「質」が大きく変化しているといえる。このような背景から、「広告」を利用して国民への啓発効果による健康増進を目指す、新学術領域「広告医学 Advertising Medicine」の創成と、派生する広告医学産業の未来に関するアイデア。

**講評** 日本の医療の現状の問題点を鋭く指摘しており、このまま進むと2030年がどのような社会になるかという予測も具体的に示されている。そうした問題点に対し、2030年のあるべき社会の構想や、解決策となるコミュニケーション・アイデアも分かりやすく、可能性が感じられた。論文の完成度も高く、ワークショップに期待できる内容であった。

#### ■ 信任貨幣 (Confidence Currency)

東京大学大学院 学際情報学府

天野彬、山岸拓也、工藤尚弥

**概要** 「お金」は、経済価値という社会機能を達成している一方で、短期的な効用の追求が社会全体の不利益を生む構造など、問題点も抱えたままである。そこで、経済価値とは異なる「信任」という価値を持った、人々が好意や評判をやりとりする貨幣を流通させる。これにより、2030年に想定される、個々人の資質や能力を活かしながら、局面に応じて新しい人的ネットワークを築く社会 (フリーエージェント化社会) に対応、未来の社会課題を解決するアイデア。

**講評** 人と人のつながりが一層価値を持つ時代へと進展する、という構想の下に描かれている。その構想の納得性と、「つながりの価値が、貨幣という形で可視化され、交換される」というアイデアの発想が非常にユニークであった。ゲーム性を持って実現されれば、新しいコミュニケーション社会が生まれるのではないかという期待の持てる内容であった。

## ■Moira Mirror ～未来のための健康リマインダーシステムの提案

早稲田大学大学院 国際情報通信研究科 マルチメディアサイエンス分野 徐子雁、張伊雯、張棋翔

**概要** 不規則な生活リズムや朝食の欠食などにより、生活習慣病の発症年齢は低年齢化する傾向にあり、2030年は発症者数も大幅に増加していることが予想される。このような未来課題を踏まえ、ユーザーの身体の情報収集し、理想体型だった“過去の自分”や、今の生活を継続することで予想される“未来の自分”とコミュニケーションすることで、健康意識を高めるためのコミュニケーションアイデア。

**講評** 自分の健康状態が「鏡」というモチーフで可視化される、というアイデアの分かりやすさと新しさで、2030年の社会で広く使われる仕組みになるという期待が持てた。またそれが、離れた家族や仲間と簡単にソーシャルに共有される社会の構想には、今後さらにさまざまなアイデアが生まれ、結びついていくベースとなる可能性を感じた。

## ■未来に灯りを灯す

九州大学 統合新領域学府 ユーザ感性学専攻

水上郁太郎、亀井昴、姉川伊織

**概要** 技術の目覚ましい発展により、都市の生活から光が消えることがなくなった。しかし、2030年の社会では、行き過ぎた光の拡大に疑問を感じる人々が増え、光を消し始めることが予想される。このような状況において、単なる照明としての“光”ではなく、自分の個性に合った“灯り”をそれぞれがカスタマイズして所有できるようにし、人々に灯りを取り戻すことを提案。

**講評** サステナブルな社会像を構想し、その実現に向けたアイデアとして、日本固有の「灯り」というモチーフと、ECOを掛け合わせた発想が瑞々しく、斬新に感じられた。「灯り」や「光」をデザインする小さなスタートで、人と人がつながっていき、美しく大きな動きが起きる社会は、日本の2030年の姿として期待が持てるものであった。

## ■ノマドパスポート -NOMAPO-

慶應義塾大学 総合政策学部 総合政策学科 小川慶大、飯田麻友、仲川孔望

**概要** 新興諸国の台頭などにより、2030年は国際社会における日本の国力や発言力が、ますます下がっていることが予想される。日本の存在感を国際的に維持していかなければならないという課題解決のため、ノマドと呼ばれる人々を活用する。背景には、グローバル化がより進展することで、「衣・食・住」の「住」の必要性が少なくなることがある。ノマドと呼ばれる、一つの場所にとどまらずに移動し続ける人々を、日本のPR大使として活用し、国境を気にせず世界中を動き回れる「ノマドパスポート」を付与。世界と日本の架け橋となる日本のノマドを、世界中に送り出すためのアイデア。

**講評** グローバル化が一層進展する中で、日本の存在感を高め、日本人の人材の流動性を高める必要があるという構想、またそのために不足している問題点の指摘と、それを解決するための分かりやすいアイデアであった。

### 特別審査員 略歴

**増田 寛也 (ますだ ひろや)**

東京大学公共政策大学院 客員教授  
株式会社 野村総合研究所 顧問

1977 年東京大学法学部卒業後、建設省(現国土交通省)入省。千葉県警察本部交通部交通指導課長、茨城県企画部交通産業立地課長、建設省河川局河川総務課企画官、建設経済局建設業課紛争調整官等を歴任。

建設省退官後、95 年岩手県知事に当選。その後 3 期 12 年務める。07 年総務大臣・内閣府特命担当大臣、08 年退任。09 年 4 月より現職。

著書『地域主権の近未来図』(朝日新書)

**中村 拓志 (なかむら ひろし)**

建築家

1974 年東京都生まれ。NAP 建築設計事務所代表。

1999 年明治大学大学院理工学研究科博士前期課程修了。

隈研吾建築都市設計事務所を経て 2002 年 NAP 建築設計事務所設立。主な作品「地層の家」、「Dancing trees, Singing birds」他。

2008 年グッドデザイン賞金賞、日本建築家協会賞、2010 年新建築賞など受賞多数。

著書『恋する建築』(アスキー)、『微視的設計論』(INAX 出版)

## **参考：「MIRAI DESIGN AWARD 2030」概要**

MIRAI DESIGN LAB. (MDL.)の発足を機に、「MIRAI DESIGN AWARD 2030」を開催。

20年後、2030年の社会を想定したアイデアを全国の大学生・大学院生から募り、2010年10月1日～2010年12月23日の募集期間内で、合計40件のアイデアが集まりました。

その後、本アワードにご協力いただいている大学教授や特別審査員、MDL.メンバーにて選考。1次審査、2次審査を経て、全5チームのアイデアを受賞しました。受賞チームは、今後、ラボの研究メンバーとして活動していただきます。

### **【今後の活動スケジュール】**

- ・4月6日 「MIRAI DESIGN AWARD 2030」授賞式
- ・4月～6月下旬 ワークショップ開催(複数回の実施を予定)
- ・7月 ワークショップを経て練られたアイデアを「MIRAI DESIGN LAB.」から発表

## 『MIRAI DESIGN LAB.』基本趣意

そのアイデアが、未来を創る。日本を変える。

情報があふれる社会から、つなぐコミュニケーション社会へ。

コミュニケーションの力と可能性で未来を創る、アイデア開発ラボが発足。  
思いを集うのは、未来の力と直接向き合う大学、  
そしてコミュニケーションのプロである電通と博報堂。

コミュニケーションとは、個人と個人、人と社会、人と可能性、  
人と未来をつなぐ形のこと。  
あるときは言葉、空間、環境、経済、文化、技術、システム、そして心。  
集うのは、未来を視る人、構想する人、価値を創る人、  
それを伝えようとする人と志です。

今の私たちの想像や期待をはるかに越える、力強い未来をめざして。  
まずは20年後の未来を、拓いていきます。

- 主催： 株式会社電通、株式会社博報堂  
協力： 九州大学大学院 芸術工学研究院  
所在地： 東京ミッドタウン・デザインハブ 九州大学・芸術工学東京サイト内  
東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー5F  
URL： [www.miraidesign-lab.com](http://www.miraidesign-lab.com)  
問合せ： 03-3545-8408 (MIRAI DESIGN LAB. 事務局)  
発起人： 池永 忠裕 (株式会社電通 プロモーション事業局 プロモーション・デザイン室長)  
永井 一史 (株式会社 HAKUHODO DESIGN 代表取締役社長)  
協力： 清須美 匡洋 (国立大学法人九州大学大学院 芸術工学研究院 教授)

# MIRAI DESIGN LAB.

DENTSU + HAKUHODO